

眉をあくれば

秋田県立雄物川高等学校
校長室だより 第6号
平成29年11月15日(水)
執筆 信田 正之

二つの同級会

去る8月11日、私が高校時代を過ごしたクラスの同級会が行われました。と言うより、私が実行委員を務めましたので「行った」と言うべきでしょうか。私たちが高校を卒業したのは、今から38年前のことです。当然ながら、当時の外見を未だに保っている人などいようはずありません。それでも、時々顔を合わせる地元在住の同級生なら何とか見分けはつきますが、出席者の中には高校卒業以来、一度も会ったことがない人もいます。おまけに、そういう人に限って髪が薄くなったり、恰幅がよくなったりしていると、相手が誰なのか思い出せず、二人の間に妙に気まずい空気が漂うこととなります。ただそれは最初のうちだけ。一言二言言葉を交わすとすぐに記憶が蘇り、気がつけば会話は弾んでいます。結局、同級会はまるで昼休みの教室のような賑やかさとなり、予定時間を越えたことに気づかぬほど、大いに盛り上がりました。

その翌日の8月12日、今度は私が高校教員になって初めて担任をしたクラスの同級会に招待されて行ってきました。二日連続の同級会です。このクラスは男子ばかりで、私も当時は若かったため、生徒と言うより弟がたくさんできたような気がしていました。(余談になりますが、このうちの一人が本校男子バレーボール部卒業生、鈴木祐貴くんの父親であることを、今年になってから知って大変驚きました。世の中、狭いなあとつくづく思います。)当時の男子高校生の間には、リーゼントや短ラン、ボンタンといった出で立ちが流行していた時代で、このクラスにもそんな格好をした生徒が何人もいました。久しぶりに再会した彼らは、我々の前でこそ当時のようなやんちゃ振りを「演じて」いましたが、それぞれが生活を営む社会の中では、立派な社会人になっているようでした。自ら会社を営んでいたり、役職に就いていたり、公務員だったり……。クラスで一番やんちゃな生徒は高校を卒業してすぐ自衛隊に入隊し、現在も国を守るために活躍しているとのこと。卒業後の頑張りを教え子一人一人から聞いて、私は心から誇らしく思いました。

さて、同級会にはどんな目的があるのでしょうか。前述の二つの同級会から私が強く感じるのは、単に学生時代を懐かしむのではなく、「互いの人生を確かめ合い生きる力を蓄える」という目的があるのではないかということです。青春時代に悩みや苦しみ、喜びを分かち合った級友は強い絆で結ばれた「仲間」です。そんな仲間たちが同級会に集まると、まずはお決まりの「思い出話」に花を咲かせますが、やがてそれぞれが自分の人生を語り始めていることに気づきます。成功した話、失敗した話、人に言えない悩み……。信頼できる仲間だからこそ語り合えるし、語らいを通して自然に元気や勇気が湧いてきます。一生を通じて、このような仲間との出会いはかけがえのない宝物と言えるでしょう。

3年生諸君は、あと4ヶ月で本校を卒業します。残された時間はわずかですが、仲間とここで巡り会えたことを大切にし、さらに友情を深めてほしいと思います。そして何年かして仲間に出会いたくなったら、ぜひ同級会を開いてください。きっと自分の人生の大きな助けになることでしょう。